

■ 建築ライセンス本科 教科目〔科目担当者〕一覧

設計実務経験者授業	1445.5 時間	1616.0 時間
施工実務経験者授業	170.5 時間	
授業総時間	1746 時間	

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
2級建築士・計画	1	必修	小牧 友久	○		82.5
2級建築士・法規	1	必修	遠藤 忠俊	○		82.5
2級建築士・構造	1	必修	鈴木 樹	○		82.5
2級建築士・施工	1	必修	岩雲 康弘		○	82.5
2級建築士・製図	1	必修	雲井 信広	○		330
1・2級建築士演習	2	必修	鈴木 樹	○		51
各種資格演習	2	必修	鈴木 樹	○		102
建築造形A	1	必修	鈴木 樹	○		30
建築造形B	1	必修	鬼頭 和弘	○		20
建築造形C	2	必修	牧 秀明	○		27
建築計画学Ⅰ	1	必修	宇野 美紀	○		20
建築計画学Ⅱ	2	必修	宇野 美紀	○		16
建築構造学Ⅰ演習	1	必修	石黒 達哉		○	20
建築環境工学	1	必修	岡戸 良介	○		20
構造力学Ⅰ演習	1	必修	森 登	○		20
建築材料学	1	必修	長島 建雄		○	20
設備計画学	2	必修	荒居 秀征		○	16
建築史	1	必修	澤田 多喜二			20
建築史演習	2	必修	澤田 多喜二			18
建築施工学	2	必修	長島 建雄		○	16
都市計画学	1	必修	吉岡 竜巳			20
建築法規	2	必修	川田 英男			16
建築デザイン論	1	必修	弓場 明彦			20
CADⅠ	1	必修	小牧 友久	○		30
CADⅡ	2	必修	鈴木 樹	○		30
建築設計Ⅰ－a	1	必修	小牧 友久	○		30
建築設計Ⅱ－a	2	必修	鈴木 樹	○		30
建築設計Ⅲ－a	2	必修	鈴木 樹	○		30
測量学	2	必修	岩雲 康弘		○	16
地球環境と建築	2	必修	杉浦 清	○		18
福祉と建築	1	必修	小牧 友久	○		20
防災と建築	1	必修	鈴木 樹	○		20
景観論	2	必修	吉岡 竜巳			18
建築技術史	2	必修	野村 種明			18

科 目	学年	必選別	担 当 者	設計実務 経験者	施工実務 経験者	時間数
卒業研究 I	2	必修	鈴木 樹	○		324
卒業研究 II	2	必修	鈴木 樹	○		30

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・計画	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	82.5
⑤ 担当教員(代表)	小牧 友久		授業形態	講義
⑥ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅰ」分野の学習を行う。環境工学、建築計画、建築設備の3分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容まで幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 3 時間目	日本建築史、西洋建築史、近代・現代建築史			
4 ～ 7 時間目	環境工学の用語・単位と環境問題			
8 ～ 11 時間目	空気汚染			
12 ～ 15 時間目	音湿度			
16 ～ 19 時間目	換気・通風			
20 ～ 23 時間目	伝熱、結露			
24 ～ 27 時間目	日照・日射・日影・採光			
28 ～ 31 時間目	音響・吸音・遮音・残響			
32 ～ 35 時間目	光・色彩			
36 ～ 39 時間目	専用住宅			
40 ～ 43 時間目	集合住宅・住宅地の計画			
44 ～ 47 時間目	商業建築・事務所建築			
48 ～ 51 時間目	公共建築			
52 ～ 55 時間目	各部計画、住宅生産			
56 ～ 59 時間目	設備用語、空調設備			
60 ～ 63 時間目	冷暖房設備			
64 ～ 67 時間目	給水設備・排水設備			
68 ～ 71 時間目	電気設備、照明設備			
72 ～ 75 時間目	防災・消防設備			
76 ～ 79 時間目	省エネルギー設備			
80 ～ 82.5 時間目	搬送・ガス設備			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	スタンダード二級建築士		出版社：学芸出版社
	教材			著 者：建築資格試験研究会
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード 060101

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・法規	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	82.5
⑤ 担当教員(代表)	遠藤 忠俊		授業形態	講義
⑥ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅱ」分野の学習を行う。 過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 3 時間目	用語の定義			
4 ～ 7 時間目	面積・高さ等の算定方法			
8 ～ 11 時間目	建築基準法の手続き等			
12 ～ 15 時間目	換気・採光・シックハウス対策			
16 ～ 19 時間目	一般構造			
20 ～ 23 時間目	防火規制			
24 ～ 27 時間目	内装制限			
28 ～ 31 時間目	避難施設			
32 ～ 35 時間目	構造計算			
36 ～ 39 時間目	鉄筋コンクリート造			
40 ～ 43 時間目	木造・その他の構造			
44 ～ 47 時間目	道路			
48 ～ 51 時間目	用途地域			
52 ～ 55 時間目	容積率			
56 ～ 59 時間目	建蔽率			
60 ～ 63 時間目	高さ制限			
64 ～ 67 時間目	防火地域・準防火地域			
68 ～ 71 時間目	建築士法			
72 ～ 75 時間目	建設業法・宅地建物取引業法			
76 ～ 79 時間目	バリアフリー法・耐震改修促進法			
80 ～ 82.5 時間目	都市計画法・消防法			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	スタンダード二級建築士		出版社：学芸出版社
	教材			著 者：建築資格試験研究会
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード 060102

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・構造	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	82.5
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹		授業形態	講義
⑥ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅲ」分野の学習を行う。構造力学・構造計画・一般構造・構造材料の4分野について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。				
⑦ 授業の概要				
過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容までを幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 3 時間目	用語と単位・断面の性質			
4 ～ 7 時間目	応力度・許容応力度			
8 ～ 11 時間目	力のモーメント・釣合・合成と分解			
12 ～ 15 時間目	反力			
16 ～ 19 時間目	静定梁			
20 ～ 23 時間目	静定ラーメン			
24 ～ 27 時間目	静定トラスの応力(節点法)			
28 ～ 31 時間目	静定トラスの応力(切断法)			
32 ～ 35 時間目	座屈(座屈長さ・座屈荷重)			
36 ～ 39 時間目	荷重及び外力			
40 ～ 43 時間目	地盤及び基礎			
44 ～ 47 時間目	木構造			
48 ～ 51 時間目	補強コンクリートブロック造・壁式鉄筋コンクリート造			
52 ～ 55 時間目	鉄筋コンクリート構造			
56 ～ 59 時間目	鉄骨構造			
60 ～ 63 時間目	構造計画			
64 ～ 67 時間目	構造材料(木材)			
68 ～ 71 時間目	構造材料(コンクリート材料強度・調合)			
72 ～ 75 時間目	構造材料(鋼材・金属材料)			
76 ～ 79 時間目	その他の各種材料			
80 ～ 82.5 時間目	建築材料(用途・全般)			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	スタンダード二級建築士		出版社：学芸出版社
	教材			著 者：建築資格試験研究会
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード 060103

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・施工	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	82.5
⑤ 担当教員(代表)	岩雲 康弘		授業形態	講義
⑥ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>二級建築士試験の学科試験の合格を目指し、「学科Ⅳ」分野の学習を行う。施工管理、各種工事、積算、測量について過去の出題内容を踏まえ、基礎的な項目については完全習得を目指す。また、基礎的な内容に留まらず応用力をも養っていくことで、建築士として必要な技術と知識を身につける。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>過去問題の徹底分析を行い、関連することがらや応用的内容まで幅広く学習する。また、各單元ごとに学習達成度を小テスト等を実施し確認する。各自の学習達成度を把握することで、以後の授業の組立てを検討しながら授業をすすめていく。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 6 時間目	施工計画、工程管理、			
7 ～ 12 時間目	安全管理、品質管理			
13 ～ 18 時間目	土工事			
19 ～ 24 時間目	仮設工事			
25 ～ 30 時間目	型枠工事			
31 ～ 36 時間目	鉄筋工事			
39 ～ 42 時間目	コンクリート工事			
43 ～ 48 時間目	鉄骨工事			
49 ～ 53 時間目	木工事			
54 ～ 58 時間目	補強コンクリートブロック工事			
59 ～ 64 時間目	防水工事、左官工事			
65 ～ 70 時間目	タイル工事、塗装工事			
71 ～ 76 時間目	内装工事、施工機械・器具			
77 ～ 82.5 時間目	測量、積算			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	スタンダード二級建築士		出版社：学芸出版社
	教材			著 者：建築資格試験研究会
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード 060104

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	2級建築士・製図	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	330
⑤ 担当教員(代表)	雲井 信広		授業形態	実習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
2級建築士設計製図課題に対する、計画手法を学びまた、作図技術を向上させ、実技試験合格を目差す。建築物を設計することで、建築士の責任意識を高め社会から歓迎される人柄を養い、即戦力として活躍出来る人材に育てる。				
⑦ 授業の概要				
製図の実習形式で、計画から作図の演習を行い、建築設計図の基本を認識し、模擬問題を通して設計課題製図に対する実技の修得をする。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 2 時間目	2級建築士設計課題図面 計画手法			
3 ～ 4 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (エスキース)			
5 ～ 6 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (配置図兼1階平面図・2階平面図) の作成			
7 ～ 8 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (立面図・断面図) の作成			
9 ～ 10 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (矩計図) の作成			
11 ～ 12 時間目	2級建築士設計課題図面 練習① (床伏せ図・小屋伏せ図) の作成			
13 ～ 330 時間目	2級建築士設計課題図面 模擬試験			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	平成21年度版 2級建築士試験 計製図テキスト	設	出版社：(株)総合資格 著 者：教材編集会議
	教 材			
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード 060107

授業計画（シラバス）

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	1・2級建築士演習	② 対象学科・履修学年	工業専門課程	0 部
			建築ライセンス本科	2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	51
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹		授業形態	講義
⑥ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
卒業後受験する建築士試験の対策を行うことで、今まで学んだ知識の応用力を身に着ける。2級建築士取得済みのものは1級建築士の対策を、2級建築士未取得のものは2級建築士の試験対策を行う。独学で取得困難な製図のプランニングと作事演習を中心に行う。				
⑦ 授業の概要				
製図試験の対策としては、プランニングの演習と添削および作図演習を実施する。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 6 時間目	作図の要点と模範解答のトレース			
7 ～ 24 時間目	プランニングの要点解説とプランニング演習			
25 ～ 33 時間目	ラフスケッチからの作図演習			
34 ～ 45 時間目	製図対策（作図演習）			
46 ～ 51 時間目	総合模擬試験			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書		出版社：	
	教材	配布資料	著 者：	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060303

授業計画（シラバス）

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	各種資格演習	② 対象学科・履修学年	工業専門課程	0 部	
			建築ライセンス本科	2 年	
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	102	
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹		授業形態	演習	
⑥ 評価基準	演習授業内試験を100点満点として実施し、60点以上を合格とする。				
⑥ 授業の目的・目標					
卒業後に必要な各種資格の取得に向けた対策を行い、実際に受験し合格することを目標にする。資格試験に臨むことで実務への意識を高め、知識の実務への応用力を身に着ける。主に、宅地建物取引士の受験に向けた対策を実施する。					
⑦ 授業の概要					
宅地建物取引士をはじめ、年度内に受験可能な各種資格についての講義と対策を行う。					
⑧ 授業内容・授業計画					
1 ～ 48 時間目	宅建業法 解説				
49 ～ 54 時間目	宅建業法 確認試験				
55 ～ 72 時間目	権利関係 解説				
73 ～ 78 時間目	権利関係 確認試験				
79 ～ 96 時間目	法令・税 解説				
97 ～ 102 時間目	法令・税 確認試験				
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
⑨ その他	教科書	どこでも学ぶ宅建士 基本テキスト	出版社：建築資料研究社		
	教材	著者：日建学院			
	教材	宅建どこでも過去問（①権利関係編、②宅建業法編、③法令・税その他編）			
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060304

授 業 計 画（シラバス）

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築造形A	② 対象学科・履修学年	工業専門課程	0 部
			建築ライセンス本科	1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数(単位数)	30 (2)
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹		授業形態	演習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>建物の機能は雨風をしのぎ、安全で快適に過ごせることであるが、その上、文化的で美しく、景観に調和した建物が建築といわれ、この科目では造形の基礎を学び、建築デザインの基本を修得することを目標としている。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>イントロプログラムにより事前に授業概要を把握させ、スクーリング型式で建築のかたちと空間をデザインコンセプトモデル(模型)を作成し発表会の形で表現する。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 10 時間目	バス停キャノピー（天蓋）とモニュメントの作成			
11 ～ 20 時間目	ドックキャビン（犬小屋）とテントハウスの作成			
21 ～ 30 時間目	ガソリンスタンドの作成と発表			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書		出版社：	
	教材	配布資料	著 者：	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060401

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築造形B	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20
⑤ 担当教員(代表)	鬼頭 和弘		授業形態	演習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>平面に写真のような立体的な表現をする透視図は、より多くの情報を第三者に伝えることができるのでその描き方を学び、建築物の立体的な表現を身につけ、その成果として、著名な建築物の内観透視図・外観透視図を作成する。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>テキストにより、建築を表現する手法について知識を広く得るとともに、実際に描くことで、技法を習得する。その後、自分の意図した空間・形態を的確に立体的に表現する手法を実際の建築物と照らし合わせながら習得する。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 4	時間目	平行透視図の描き方練習		
5 ～ 8	時間目	成角透視図の描き方練習		
9 ～ 14	時間目	実際の建物の内観透視図の作成		
15 ～ 20	時間目	実際の建物の外観透視図の作成		
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
⑨ その他	教科書	建築製図の基本と描き方	出版社：彰国社	
	教材		著 者：フランシスD.K. チン	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060402

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築造形C	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	27
⑤ 担当教員(代表)	牧 秀明		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
この科目の狙いは2つあり、1つ目は過去の建築の空間構成・造形原理を探究し、理解すること。模型制作を通じて、その建築を設計した人物がどうやってそのデザインに至ったのかを考えること。2つ目のねらいは、単に本物そっくり精巧な模型を作るのではなく、目的に応じた作り分けが必要とされる建築的模型表現方法を修得すること。				
⑦ 授業の概要				
築模型は「自分のためのもの」と「人のためのもの」との2種類に大別される。前者は建築の造形を考えるにあたって自己確認、あるいは試行錯誤するための模型であり、後者は人に説明する、あるいは説得するためのプレゼンテーション模型である。趣味で作る模型と違い、限られた時間と費用で効果のある表現をするための基礎知識と技術を、課題を通して修得する。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 1 時間目	道具・材料の説明			
2 ～ 2 時間目	基礎練習			
3 ～ 8 時間目	スタディ模型その①の制作			
9 ～ 14 時間目	スタディ模型その②の制作			
15 ～ 21 時間目	プレゼンテーション模型の制作			
22 ～ 23 時間目	写真撮影			
24 ～ 27 時間目	レイアウト			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	建築模型の作り方と設計への活用	出版社：彰国社 著 者：村尾成文・渡邊嘉雄	
	教材			
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060403

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築計画学 I	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年	
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20	
⑤ 担当教員(代表)	宇野 美紀		授業形態	講義	
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。				
⑥ 授業の目的・目標					
<p>建築を計画する際には、快適性、安全性、経済性、機能性、意匠性、依頼者からの要求、法的条件、地理的条件などを多くの事柄を考えなければならない。それら一つ一つを適切に把握し、総合的に計画（プランニング）する。ここでは最も身近な「住宅」を対象とし、そのプランニング手法、空間デザイン手法、建築計画の基本的な方法論を習得する。</p>					
⑦ 授業の概要					
<p>建築計画の基本的な内容から「住宅」に関わる内容を講義し、各自がテキスト中の戸建て住宅及び集合住宅からそれぞれを1つ取り上げ、レポートを作成する。</p>					
⑧ 授業内容・授業計画					
1 ～	1 時間目	建築の始まりから解体・廃業まで			
2 ～	2 時間目	建築に携わる人と組織			
3 ～	3 時間目	計画と設計			
4 ～	4 時間目	風土と建築			
5 ～	5 時間目	文化と建築			
6 ～	6 時間目	社会と建築			
7 ～	7 時間目	健康と建築			
8 ～	8 時間目	空間と知覚			
9 ～	9 時間目	空間と人間の行動			
10 ～	10 時間目	利用の計画			
11 ～	11 時間目	成長と変化の計画			
12 ～	12 時間目	寸法の計画			
13 ～	13 時間目	形の比例と寸法のシステム			
14 ～	14 時間目	建築物における事故と安全計画			
15 ～	15 時間目	行為と家具			
16 ～	16 時間目	デザインすることの意味			
17 ～	17 時間目	設計方法論			
18 ～	18 時間目	住居系（住宅、集合住宅）			
19 ～	20 時間目	各自によるレポート作成			
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
⑨ その他	教科書	建築計画を学ぶ	出版社：理工図書		
	教材		著 者：建築計画教材研究会		
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060404

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築計画学Ⅱ	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	16
⑤ 担当教員(代表)	宇野 美紀		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>地域社会に開かれた、公共性を持った建築物には学校、図書館、美術館、博物館、病院、福祉施設、コミュニティ施設、事務所などがあり、複数の用途・機能を併せ持った複合施設もある。これらの施設は建築単体として成立するのではなく、社会の仕組みを反映し、地域の生活や文化との関わりの中で計画されるものである。そのため、周辺環境に対する配慮や社旗的寄与が求められる。こうした建物の計画の理論と方法論を代表的な事例を通して学習する。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>建築計画の「公共的な施設」に関わる内容を講義し、第1課題として、各自が複合施設の中から1つを取り上げ、その平面や断面計画を、規模や機能、用途構成利用形態、管理区分を、あるいは利用者、管理者の動線などから分析したレポートを作成する。第2課題として、施設の長寿命化を考える上で建築計画的に配慮できる手法や考えを整理し、その効果や課題を具体的にレポートにまとめる。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 3 時間目	環境や文化との関わりから公共性について			
4 ～ 6 時間目	社会のしくみの中でさまざまな施設の成り立ちや展開について			
7 ～ 9 時間目	公共的な建築の経済性や運営、利用者の参加について			
10 ～ 12 時間目	各種施設それぞれの計画と設計について(規模や計画原単位、平面、断面計画、運営方式等)			
13 ～ 16 時間目	各自によるレポート作成			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	建築計画を学ぶ	出版社：理工図書	
	教材		著 者：建築計画教材研究会	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060405

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築構造学 I 演習	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20
⑤ 担当教員(代表)	石黒 達哉		授業形態	講義
⑥ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
構造物の骨組みについて理解し、それを基本に構造計画、構造設計することができる。				
⑦ 授業の概要				
建築構造学 I の主要構造物である木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造の概略的講義をもとに、建築構造学 I 演習ではこれらの建築構造の中で特に、木構造および鉄筋コンクリート構造を中心にした建築物の骨組みや仕上げの構成を簡単な模型や多くの事例図を用いてより詳細に解説し、それらを基に安全な建築物を設計するための基本的な考え方を対話形式で解説するとともに、木造と鉄筋コンクリート造についての構造計画を概説し、演習を通して構造設計について触れてもらう。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～	1 時間目	建築構造学の概要		
2 ～	3 時間目	建築構造学の基礎		
4 ～	5 時間目	木構造の基礎		
6 ～	7 時間目	木構造の構造計画		
8 ～	10 時間目	壁量の設計		
11 ～	12 時間目	鉄筋コンクリート構造の概要		
13 ～	14 時間目	鉄筋コンクリート構造設計		
15 ～	16 時間目	鉄筋コンクリート造の構造計画		
17 ～	18 時間目	地震と建物の構造		
19 ～	20 時間目	修了試験		
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
⑨ その他	教科書		出版社：	
	教材		著 者：	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060429

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築環境工学	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20
⑤ 担当教員(代表)	岡戸 良介		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>建築をめぐる環境は、機能性や経済性を追求する時代から、人間自身の安全性や快適性、加えて自然環境への配慮に目が向けられている。建築環境を形成する要素は、人体に関する諸要因と光・音・熱・空気に関する物理的な諸要素、また文化、経済に関する諸要素などに分類できる。本講座では、物理的な環境の性質を理解することを軸に学習する。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>建築をめぐる環境は、機能性や経済性を追求する時代から、人間自身の安全性や快適性、加えて自然環境への配慮に目が向けられている。建築環境を形成する要素は、人体に関する諸要因と光・音・熱・空気に関する物理的な諸要素、また文化、経済に関する諸要素などに分類できる。本講座では、物理的な環境の性質を理解することを軸に学習する。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～	1 時間目	生活環境の変遷		
2 ～	2 時間目	自然と暮らし		
3 ～	4 時間目	日照・日射とすまい		
5 ～	5 時間目	照明		
6 ～	6 時間目	色		
7 ～	8 時間目	音の性質		
9 ～	10 時間目	遮音と吸音		
11 ～	12 時間目	騒音		
13 ～	14 時間目	住まいの温熱環境		
15 ～	16 時間目	空気汚染		
17 ～	18 時間目	換気		
19 ～	20 時間目	環境共生住宅		
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
⑨ その他	教科書	図解住居学5 住まいの環境		出版社：彰国社
	教材			著 者：図解住居学編集委員会
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード 060430

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	構造力学 I 演習	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20
⑤ 担当教員(代表)	森 登		授業形態	講義
⑥ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>構造上、安全な建築物であることを確認する過程に、建築構造設計がある。その構造設計を行うために必要となる構造力学の基礎について学ぶ。内容は静定構造物を主に扱い、その構造物を構成する部材に働く力の大きさや部材の断面形状による力学的性質等である。また木材、コンクリート、鋼材といった建築材料を建築部材として使用した場合の簡単な部材設計も行う。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>講義は、(1) 構造力学概要、(2) 力、(3) 構造物、(4) 静定梁、(5) 静定ラーメン、(6) 静定トラス、(7) 断面の力学的特性、(8) ひずみ度と応力度、(9) 部材の設計、(10) 梁の変形 に分けて行い、終了後2課題を与えレポートを提出させる。また10個の設題を設け科目終末試験で理解度を確認する。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～	1 時間目	構造設計力学概要		
2 ～	3 時間目	力		
4 ～	4 時間目	構造物		
5 ～	6 時間目	静定梁		
7 ～	8 時間目	静定ラーメン		
9 ～	10 時間目	静定トラス		
11 ～	12 時間目	断面の力学的特性		
13 ～	14 時間目	ひずみと応力度		
15 ～	17 時間目	部材の設計		
18 ～	20 時間目	梁の設計		
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
⑨ その他	教科書	初めての建築構造力学	出版社：学芸出版社	
	教材		著 者：建築のテキスト編集委員会	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060431

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築材料学	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部
				1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20
⑤ 担当教員(代表)	長島 建雄		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
建物を設計し施工するには建築に使用する材料の特性を熟知し、適切な材料が選択できるようにならなければならない。その地域で生産される素材や、規格され工場生産された多くの材料の建築との関係を見直し、すべての材料に対して、安全で合理的に使用できるように学ぶことが大切である。				
⑦ 授業の概要				
自宅あるいは知人の住宅の屋根、各室の床、壁、天井、窓などに要求される性能、及び実際に使用されている材料の名称と特徴をレポートとして提出させる。又10項目の設題をつくり主な建築材料の特性や使用目的を学ばせる。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 2 時間目	コンクリート			
3 ～ 4 時間目	鉄骨			
5 ～ 6 時間目	木材			
7 ～ 8 時間目	プラスチック			
9 ～ 10 時間目	屋根材			
11 ～ 12 時間目	外壁			
13 ～ 14 時間目	床			
15 ～ 16 時間目	天井			
17 ～ 18 時間目	窓・ガラス			
19 ～ 20 時間目	雑材料			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	建築材料を学ぶ -その選択と施工まで-	出版社：理工図書	
	教材		著 者：畑中重光他6人	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060409

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	設備計画学	② 対象学科・履修学年	工業専門課程	0 部
			建築ライセンス本科	2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	16
⑤ 担当教員(代表)	荒居 秀征		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
給排水衛生・防災設備、空気調和・換気設備、電気・通信設備について、現在の設備だけでなく、これまでの変遷、建築基準法との関わり等を含め理解する。そのために、必要な書籍等を探し、調べた内容について自分なりに理解し、まとめ順序立ててレポートできる。				
⑦ 授業の概要				
<p>建物は設備がないと非常に不便であり、時にはその建物の存在意義さえも失うことがある。</p> <p>建築設備は、給排水設備・防災設備と空気調和・換気設備、そして電気・通信設備の三つに大別される。現代建築を志す者にとっては、その根底に意匠と設備のマッチング、更に現代社会の目指す省エネルギーへの感覚が必要不可欠である。</p> <p>本教科では、以上の観点に立ち、建築設備の7三分野それぞれの特徴を学習する。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1	～	1	時間目	人間と建築設備
2	～	4	時間目	給排水設備
5	～	6	時間目	換気設備
7	～	9	時間目	空調設備
10	～	11	時間目	電気設備
12	～	13	時間目	熱源設備
14	～	16	時間目	消防・防災設備
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
	～		時間目	
⑨ その他	教科書	わかる！建築設備		出版社：オーム社
	教材			著 者：柿沼整三
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード
				060410

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築史	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20
⑤ 担当教員(代表)	澤田 多喜二		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
日本建築・西洋建築・近代建築の変遷と、各時代・地域における様式・構造・技術の特徴を理解し、それらをつくりだした理念や社会背景など文化の特質についても考える。				
⑦ 授業の概要				
各時代の権力者は政治・経済・文化を背景にその時代の先端技術・芸術を駆使し見事な空間・構造・装飾による建築を創造し続けた。一方、庶民はその地方性、風土性の影響の中で伝統的な技術手段でゆっくりとした変遷を辿り美しい民家・町家を造り続けた。近代に入ってこの2つは普遍化し現代建築が展開している。この歴史の中で専門家達(僧侶、棟梁、職人、建築家、技術者)が各時代に何を基本的技法手段で建造したのか、その内容を深く学びとることが明日の建築文化を創造する大切な姿勢である。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～	1 時間目	日本古代の建築		
2 ～	3 時間目	日本中世の建築		
4 ～	5 時間目	日本近世の建築		
6 ～	6 時間目	西洋古代の建築		
7 ～	7 時間目	西洋中世の建築		
8 ～	9 時間目	西洋近世の建築		
10 ～	11 時間目	近代建築の発生		
12 ～	13 時間目	近代建築の発展		
14 ～	14 時間目	日本の近代建築		
15 ～	16 時間目	レポート作成、試験対策		
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
⑨ その他	教科書	建築史 増補改訂版	出版社：市ヶ谷出版社	
	教材	日本建築学会 各建築史図集(彰国社)他	著者：藤岡通夫 他	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060432

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築史演習	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	18
⑤ 担当教員(代表)	澤田 多喜二		授業形態	講義
⑥ 評価基準	定期試験を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>(1) 歴史的建造物を実際に観察して、調査・分析し、歴史的変遷や建築的特徴を明らかにする (2) 都市や集落は、いかにして建築が造られ、建物が集合し、発展してきたか、文献史料や現地調査を基に、歴史性や地域性、文化的背景を踏まえて多角的に考察する。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>建築史で学んだことを踏襲しながら、歴史的建造物や身近な近代建築物を実際に調査（聞き取り、観察含む。）、研究、分析を行う。ここでは、建築物のみならず、都市や集落といった集合体としてのマクロな視点からフィールド調査を行い、総合的に建築史を学習する。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 4	時間目	ケーススタディ海外編（レッチェ他、マルコス、マラケシュ、中国等）		
5 ～ 6	時間目	ケーススタディ国内編（宮脇檀とデザインサーベイの軌跡他）		
7 ～ 13	時間目	フィールド調査及び建物観察		
14 ～ 15	時間目	調査分析		
16 ～ 17	時間目	レポート作成、試験対策		
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
⑨ その他	教科書	実測術?サーベイで都市を読む・建築を学ぶ	出版社：学芸出版社 著 者：陣内秀信、中山繁信編著	
	教材	日本建築学会 各建築史図集（彰国社）他		
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060433

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築施工学	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	16
⑤ 担当教員(代表)	長島 建雄		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>現地調査・見積もり・入札・契約から始まり、施工計画図・施工図の作成、材料・機械・労務の手配、各種工事の実施と管理、完了後の竣工検査までの施工の一連の流れを学ぶ。さらに熟練労働者の不足・現場作業の合理化の遅れ・現場災害の克服、現場一品生産からプレファブ化へ技術革新、管理技術の向上、大量に発生する産業廃棄物の問題などについて認識を持たせる。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>良いものを、如何にして、安く、早く、安全に、周囲の環境を損なうことなく造るにはどうしたらよいか。そのためには単に施工技術の知識技能だけでなく、材料の性質・構造原理・各種法規・環境工学等の知識が必要である。請負契約と見積、工事計画と施工管理、各種工事の施工法、完成後の施設の維持管理などの技術・知識及び関連している分野の知識を総合的に学習する。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 2 時間目	請負契約と積算			
3 ～ 4 時間目	工事計画・管理			
5 ～ 時間目	仮設工事			
6 ～ 7 時間目	土工事・地業工事			
8 ～ 9 時間目	鉄筋コンクリート系工事			
10 ～ 11 時間目	鉄骨系工事			
12 ～ 12 時間目	木質系工事			
13 ～ 13 時間目	仕上げ工事			
14 ～ 14 時間目	設備工事			
15 ～ 15 時間目	解体工事と建築廃棄物処理			
16 ～ 16 時間目	維持管理			
17 ～ 17 時間目	施工機械			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	建築施工教科書	出版社：彰国社	
	教材	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時		
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060413

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	都市計画学	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20
⑤ 担当教員(代表)	吉岡 竜巳		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
日本、及び欧米の都市計画の基本理念の系譜をたどり、望ましいとされる都市の姿を実現するために考え出された、土地利用や交通計画、各種施設、建築物の計画方法について学習する。				
⑦ 授業の概要				
都市計画の技術・手法について、街区・地区・地域という様々なレベルから体系的に理解し、現代の現実的な社会環境の中において都市計画が果たす役割や問題点を探り、これからの都市計画・都市デザインのあり方について考える。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 4 時間目	19世紀の産業革命による工業化都市の出現について学ぶ			
5 ～ 8 時間目	都心部の整序をめざしたル・コルビュジェの提案と現代の都市計画の関連を学ぶ			
9 ～ 12 時間目	地方自治体が都市計画を策定するよう定められており、そのマスタープランについて学ぶ			
13 ～ 16 時間目	現在の都市の活動や姿、地域の特性、あるいは課題をどのようにとらえているか学ぶ			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	初めて学ぶ都市計画	出版社：市ヶ谷出版社 著 者：執筆代表 伊達美徳	
	教材			
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060414

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築法規	② 対象学科・履修学年	工業専門課程	0 部	
			建築ライセンス本科	2 年	
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	16	
⑤ 担当教員(代表)	川田 英男		授業形態	講義	
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。				
⑥ 授業の目的・目標					
建築物をつくる上で必要となる建築関係法規の基礎知識を習得し、建築設計や施工、監理などで活用できる能力を身につけ、法令知識を養成する。					
⑦ 授業の概要					
建築基準法上、一般的な在来木造住宅を計画する場合、その建築物自体の構造・防火・居室の環境(採光や換気など)・用途地域・規模(面積や高さ)に関してチェックすべき法令を調べ、その関連する法令名、条文番号を挙げ、その目的や制限内容をまとめる。					
⑧ 授業内容・授業計画					
1 ～ 7 時間目	建築基準法の単体規定について学ぶ				
8 ～ 14 時間目	建築基準法の集団規定について学ぶ				
15 ～ 17 時間目	単体規定・集団規定の具体例をあげて関係法令のチェック				
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
⑨ その他	教科書	初めての建築法規		出版社：学芸出版社	
	教材	著 者：編集委員長 前田幸夫			
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060434

授業計画（シラバス）

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築デザイン論		② 対象学科・履修学年	工業専門課程	0 部
				建築ライセンス本科	1 年
③ 必修・選択の別	必修		④ 時間数(単位数)等	時間数	20
⑤ 担当教員(代表)	弓場 明彦			授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。				
⑥ 授業の目的・目標					
近代以降、デザインは「製造に先立ち形を造ること」と定義されている。これに従えば、建築デザインとは、「施工に先立ち、建築空間の形を造ること」と言えるだろう。建築デザイン論では、この「形」という面から建築を考えてみる。建築空間と、それを構成する建造物の形態について学び、どのようなデザイン手法によってこれらが造り出されて行くのかを習得する。					
⑦ 授業の概要					
テキストにより、建築デザインの手法についての基本概念を学ぶ。さらに、建築を形態によって分析し、デザインの手法についての理解を深める。身近にある公共的な建築物のなかで、デザイン的に優れていると思われるものを選び、どのようなデザイン手法で、形態が構成されているのかを分析し、どのようなコンセプトで設計されているのかを学ぶ。					
⑧ 授業内容・授業計画					
1 ～ 4 時間目	デザインの手法「立てる、覆う、囲う、積む、掘る・刻む」について学ぶ				
5 ～ 8 時間目	デザインの手法「並べる、整える、区切る、混ぜる、つなぐ」について学ぶ				
9 ～ 12 時間目	デザインの手法「対比させる、変化させる、浮かす、透かす・抜く」について学ぶ				
13 ～ 16 時間目	デザインの手法「動きを与える、飾る、象徴させる、自然を取り込む、時間を語る」について学ぶ				
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
～ 時間目					
⑨ その他	教科書	空間デザイン事典		出版社：井上書院	
	教材			著者：久原裕	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060416

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	C A D I	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	30
⑤ 担当教員(代表)	小牧 友久		授業形態	演習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>建築分野では、建築設計に限らず施工や構造においても迅速かつ正確な図面作成を必要とするためなくてはならない設計ツールとなっている。本科目では建築業界で多く使われる2次元CADを用い図形や建築図面のトレースを行い、CADの基本操作を修得するとともに、設計課題として各自プランをCADで仕上げ、CADの利便性をより深く理解する。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>CADソフトの概要を学び、Windowsの基本操作に始まり、AutoCADの基本操作から建築図面の作図にかかる応用操作を習得し、平面図等の作図（課題）を完成させる。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 10 時間目	CADソフトの概説、Windowsの基本操作、AutoCADの基本操作等			
11 ～ 20 時間目	建築図面の作図にかかる応用操作と課題の作図			
21 ～ 30 時間目	課題の作図			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	AutoCAD入門&実践バイブル	出版社：技術評論社	
	教材			
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060435

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	CAD II	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	30
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹		授業形態	演習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
Autodesk (オートデスク) 社のAutoCAD Architecture (オートキャドアーキテクチャ) を使用し、CADIで修得した知識を基に、AutoCAD Architectureの3次元設計機能に触れる事でCADにおける造形思想を理解し、立体的な造形手順を修得します。				
⑦ 授業の概要				
操作手順や検索手順を自力にて習得できるようになる事を目的に、CADの基本操作を習得し課題エスキスを完成させる。個別指導を受けながら、エスキスしたものを図面化し、完成させる。提出課題は、授業の中で講評する。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 10 時間目	CADの基本操作を習得／課題エスキス			
11 ～ 20 時間目	各自創作／個別指導			
21 ～ 30 時間目	課題提出／講評			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	AutoCAD入門&実践バイブル		出版社：技術評論社
	教材			著 者：
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード 060436

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計 I - a	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	30
⑤ 担当教員(代表)	小牧 友久		授業形態	演習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
住宅は、そこで子供を育て家族を看取り、人生の多くの時間を過ごす、建築主個人の生活の場である。さらに、建物の姿は道行く人々の眼にも否応無く触れる、地域社会の環境を構成する重要な社会的要素でもある。この科目では、「住宅」を課題として、「建築計画」と「設計製図」の基礎を学ぶ。				
⑦ 授業の概要				
この授業では、小規模専用住宅を課題に、設計家としての立場に立って、住み手との対話をとおして、造形物として空間のデザインをまとめる手法と、「建築計画」の基本事項、およびそれらを的確に表現する図法や表現法の基礎を学びます。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1	～	10	時間目 住宅設計を通して建築物の企画・設計の考え方と手法を学ぶ	
11	～	20	時間目 小規模専用住宅の設計図面の作成について学ぶ	
21	～	30	時間目 住宅の外観スケッチの作成と模型制作、個人発表	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
⑨ その他	教科書	建築設計教室新訂2版		出版社：彰国社
	教材			著 者：勝又英明
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード 060419

授業計画（シラバス）

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計Ⅱ－a	② 対象学科・履修学年	工業専門課程	0 部
			建築ライセンス本科	2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	30
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹		授業形態	演習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
住宅以外の各種建築の計画と設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。この課題では、企画の立案住宅以外の各種建築の計画と設計を通して、公共性を持つ施設の建築計画についての基礎を学ぶ。この課題では、企画の立案プレゼンテーションの方法を身につける。				
⑦ 授業の概要				
商業施設、街かどのギャラリーなど、イメージしやすい規模と用途を持ち、地域に開かれた機能を持つ施設について、コンセプト作りから始め、模型作成とエスキスを行い、具体的な空間デザインを進める。各個人で図面や模型をまとめ、最終日に発表を行い、講評を受ける。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 10 時間目	課題説明。商業施設など、地域に開かれた機能を持つ施設の設計			
11 ～ 20 時間目	模型の作成とエスキスをしながら具体的な空間デザインを進める			
21 ～ 30 時間目	図面と模型をまとめて個人発表			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	コンパクト建築設計資料集成 第3版	出版社：丸善出版	
	教材		著 者：日本建築学会編	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060420

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築設計Ⅲ－a	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	30
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹		授業形態	演習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>「建築設計 II-1」で対象とした中程度の規模、あるいは用途に限られた施設に比べ、設計にあたって検討すべき計画条件・法的・構造的条件は複雑になる。これらの関係を的確に把握し、自らの発想で適切にまとめ表現する能力を養い、場を読み想像力を活かす設計の手法、プロセスを学ぶ。あわせて合意形成やプレゼンテーションの方法を身につける。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>中心市街地や住宅地で求められる複合機能の公共施設の設計を通じ、機能と空間の両面から、地域の風景に調和した公共空間をデザインする手法を学ぶ。作品は、スタディ模型を利用しながら各個人で図面としてまとめ、最終日に発表を行い、講評を受ける。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 10	時間目	課題説明。中心市街地等で求められる複合機能の公共施設の設計		
11 ～ 20	時間目	複合機能の公共施設の設計とスタディ模型の作成		
21 ～ 30	時間目	プレゼンボードの作成等と個人発表		
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
～	時間目			
⑨ その他	教科書	コンパクト建築設計資料集成 第3版	出版社：丸善出版	
	教材		著 者：日本建築学会編	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060421

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	測量学	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部
				2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	16
⑤ 担当教員(代表)	岩雲 康弘		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>建築学・土木工学・都市工学に必要な測量学の基礎について学ぶ。本科目では、測量の原理を正しく理解し応用出来る知識を修得するために、測量技術の基本となる距離測量・角測量・水準測量・トラバース測量・平板測量などの正確な測定方法と作図及び面積計算、および各種測定において生じる誤差の原理の意味とその調整方法を学習する。また、建築現場における各種工事施工にともなう建築測量の実際、および、近年の最新測量技術としての光波測量・GPS等についても学ぶ。</p>				
⑦ 授業の概要				
①測量の起源と推移 ②測量のための数学 ③距離、角、高さの測量 ④位置決定のための測量 ⑤地形測量 ⑥建築測量 ⑦デジタル・サーベイニング				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ~ 2 時間目	測量の起源と推移			
3 ~ 4 時間目	測量のための数学			
5 ~ 7 時間目	距離、角、高さの測量			
8 ~ 9 時間目	位置決定のための測量			
10 ~ 11 時間目	地形測量			
12 ~ 14 時間目	建築測量			
15 ~ 16 時間目	デジタル・サーベイニング			
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
~ 時間目				
⑨ その他	教科書	最新測量学		出版社：森北出版
	教材			著 者：上浦正樹 他
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード
				060422

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	地球環境と建築	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 2 年	
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	18	
⑤ 担当教員(代表)	杉浦 清		授業形態	講義	
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。				
⑥ 授業の目的・目標					
建築がどれだけ地球環境問題の解決に寄与できるか、その理念や目標、具体的な手法を理解し、サステナブル社会におけるこれからの建築のあり方を示す地球環境建築について考える。					
⑦ 授業の概要					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 様々な環境問題の理解と社会における動向の把握 2. 環境負荷の少ない持続可能な建築のあり方 3. 環境負荷の少ない持続可能な都市・地域のあり方 					
⑧ 授業内容・授業計画					
1 ～	1 時間目	地球環境と建築、その時代背景			
2 ～	2 時間目	地球環境建築の基本的視点			
3 ～	3 時間目	地球環境建築のビジョンとつくり方、使い方			
4 ～	4 時間目	気候風土と省エネルギー			
5 ～	6 時間目	都市環境と熱、エネルギー			
7 ～	8 時間目	建築の省エネルギー			
9 ～	10 時間目	ライフサイクルエネルギー			
11 ～	11 時間目	パッシブデザイン・アクティブデザイン			
12 ～	12 時間目	建築の寿命			
13 ～	14 時間目	資源の有効利用			
15 ～	15 時間目	安全と健康			
17 ～	17 時間目	デザインプロセスと評価			
17 ～	18 時間目	社会システムと建築専門家の役割			
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
	～ 時間目				
⑨ その他	教科書	地球環境建築のすすめ	出版社：彰国社		
	教材		著 者：日本建築学会編		
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060423

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	福祉と建築	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年	
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20	
⑤ 担当教員(代表)	小牧 友久		授業形態	講義	
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。				
⑥ 授業の目的・目標					
福祉支援に関する法制度や高齢者・障害者の身体的特徴、福祉住環境整備の技術的内容について学習し、ノーマライゼーションの概念に基づいた、バリアフリーやユニバーサルデザインの具体的な計画・設計手法について理解する。					
⑦ 授業の概要					
1. 福祉住環境における基本的考え方 2. 高齢者・障害者の心身特性と環境整備のポイント 3. 日本の住宅と住生活上の課題 4. 福祉住環境整備実現のための基本的知識と技術 5. 高齢者・障害者のための住環境整備関連施策 6. 福祉住環境整備に関わる法規等					
⑧ 授業内容・授業計画					
1 ～	1 時間目	現代社会に望まれる住環境			
2 ～	3 時間目	福祉住環境の意義と役割			
4 ～	5 時間目	高齢者・障害者に対する環境整備の意義			
6 ～	7 時間目	高齢者・障害者の身体特性			
8 ～	9 時間目	障害者の各疾患と環境整備			
10 ～	11 時間目	福祉用具とは			
12 ～	13 時間目	福祉用具の選択			
14 ～	15 時間目	生活活動から見た福祉用具			
16 ～	17 時間目	日本の住宅と住生活上の課題			
18 ～	18 時間目	各部屋・場所の具体的環境整備			
19 ～	20 時間目	福祉住環境整備に関わる法規等			
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
～	時間目				
⑨ その他	教科書	福祉住環境 新版	出版社：市ヶ谷出版		
	教材		著 者：水村容子		
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060424

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	防災と建築	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 1 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	20
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
我が国は世界の中でも有数の災害国と言われている。その種類も広域におよぶ甚大なものから、日常レベルのものまで多岐にわたっており、常に災害や事故と背中合わせで暮らしていると言っても過言ではない。本科目では、建築と災害とにかかわる諸問題について幅広く学習し、建築として取り組まなければならない課題について研究する。				
⑦ 授業の概要				
地震や気象災害など風土に根ざす災害について学び、克服する方策を考察するとともに人口の密集や都市化など、社会現象がもたらす人起因の災害について学ぶ。また、建築の内外で日常に潜む事故や小さな災害についても学んでいく。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 5 時間目	木造建築・耐火造建築における火災の特性とそれぞれの火災の防止と被害の低減のため対策等。			
6 ～ 10 時間目	地震が建築物に与える災害と、地震の被害から建築物や人命を守る方法について学ぶ。			
11 ～ 15 時間目	住宅内で起こる事故例と、その防止策について学ぶ。			
16 ～ 20 時間目	気象に起因する災害について考察し、その防止策を考える。			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	建築学の基礎 7 建築防災	出版社：共立出版	
	教材		著 者：大宮喜文	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060425

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	景観論	② 対象学科・履修学年	工業専門課程	0 部
			建築ライセンス本科	2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	18
⑤ 担当教員(代表)	吉岡 竜巳		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>日本では景観の価値が未だ、国民のコンセンサスになっていないといわれている。風景や景観についての議論は盛んであるし、景観学や景観設計についての研究も進んでいるが、日本の景観はなかなか美しくならない。そこでこの科目では景観とデザインについての両文献から建築デザインとはどういうものなのか学んでいく。</p>				
⑦ 授業の概要				
<p>自分が住んでいるまち並みの景観について調査し、変わってほしいところは、どのようなどのようなデザインすればよいかを写真やスケッチ、図表等によりビジュアルに表現する。また、変わってほしくないところはどのように保全されてきたのかを調査しレポートする。</p>				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～ 6 時間目	自分の町の景観について調査			
7 ～ 12 時間目	調査結果のまとめ			
13 ～ 18 時間目	変わってほしい所と変わってほしくないところを明確にして、レポートを構成する			
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
～ 時間目				
⑨ その他	教科書	景観用語事典増補改訂版	出版社：彰国社	
			著 者：篠原修	
	教材			
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060426

授業計画（シラバス）

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	建築技術史	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	18
⑤ 担当教員(代表)	野村 種明		授業形態	講義
⑥ 評価基準	試験を50点満点、レポートを50点満点として、各60%以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
各時代の基本的建築手段と建造方法を学び、明日の建築文化を創造する姿勢と資質向上を図る。設計から施工、監理までの実践的な内容を習得し、即戦力の建築技術者としての育成を図る（技術後継者としての育成）。				
⑦ 授業の概要				
建築史で学んだことを踏襲し、建築演習の調査研究と並行しながら、実践的な建築技術の歴史を理解する。建築技術史は、産業革命を軸として大局的に2つに分けられる。従って、産業革命の前と後の技術変遷について習得し、技術史の集大成として総合的に理解する。				
⑧ 授業内容・授業計画				
1 ～	1 時間目	現代建築の原点		
2 ～	3 時間目	木造技術の変遷		
4 ～	4 時間目	組積造の系譜		
5 ～	6 時間目	鉄骨造の完成とガラスハウス		
7 ～	10 時間目	RC造の進化		
11 ～	12 時間目	更なる建築の技術革新		
13 ～	13 時間目	もう一方の技術史		
14 ～	15 時間目	これからの技術		
16 ～	18 時間目	レポート作成、試験対策		
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
	～ 時間目			
⑨ その他	教科書	東京の近代建築 建築構造入門	出版社：理工学社 著 者：江口敏彦著、山口廣監修	
	教材	絵で見る近代建築とデザインの歩み ビル・ライズベロ著（鹿島出版会）		
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。		科目コード	060427

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	卒業研究 I	② 対象学科・履修学年	工業専門課程 建築ライセンス本科	0 部 2 年
③ 必修・選択の別	必修	④ 時間数(単位数)等	時間数	324
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹		授業形態	演習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。			
⑥ 授業の目的・目標				
<p>本学におけるこれまでの学習の成果を確認できる。 テーマ設定、資料収集、リサーチ、構想、計画、制作、検証といった一連の活動に主体的に取り組むことができる。 前述の一連の活動を通じ、自分の意見を相手に伝えられるようになる。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や、考察力を確立できる。</p>				
⑦ 授業の概要				
<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックデザイン分野 ポスター、コンピュータグラフィックス、絵本、デジタルコンテンツ等 ・絵画分野 絵画、版画、オブジェ等 ・クラフト分野 				
⑧ 授業内容・授業計画				
1	～	7	時間目	オリエンテーション
8	～	293	時間目	テーマの選定と調査・研究
294	～	298	時間目	研究経過について口頭発表と質疑応答
299	～	304	時間目	中間審査 担当教員による個別指導
304	～	317	時間目	作品パネル・模型・研究論文作り
318	～	324	時間目	教員と他の卒業研究履修学生の前で作品を提示し研究意図、研究課程、研究成果などについて発表
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
～	～	～	時間目	
⑨ その他	教科書			出版社：
	教 材	配布資料		著 者：
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード 060440

授 業 計 画 (シラバス)

【2017～2020年度入学生対象】

東海工業専門学校金山校

① 科目名	卒業研究Ⅱ		② 対象学科・履修学年	工業専門課程	0 部
				建築ライセンス本科	2 年
③ 必修・選択の別	必修		④ 時間数(単位数)等	時間数	30
⑤ 担当教員(代表)	鈴木 樹			授業形態	演習
⑥ 評価基準	提出課題を各100点満点として実施し、60点以上を合格とする。				
⑥ 授業の目的・目標					
<p>本学におけるこれまでの学習の成果を確認できる。 テーマ設定、資料収集、リサーチ、構想、計画、制作、検証といった一連の活動に主体的に取り組むことができる。 前述の一連の活動を通じ、自分の意見を相手に伝えられるようになる。また、そのことで自分自身のコミュニケーション能力や、考察力を確立できる。</p>					
⑦ 授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・グラフィックデザイン分野 ポスター、コンピュータグラフィックス、絵本、デジタルコンテンツ等 ・絵画分野 絵画、版画、オブジェ等 ・クラフト分野 					
⑧ 授業内容・授業計画					
1	～	5	時間目	研究経過について口頭発表と質疑応答	
6	～	10	時間目	中間審査 担当教員による個別指導	
11	～	23	時間目	作品パネル・模型・研究論文作り	
24	～	30	時間目	教員と他の卒業研究履修学生の前で作品を提示し研究意図、研究課程、研究成果などについて発表	
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
	～		時間目		
⑨ その他	教科書			出版社：	
	教材		配布資料	著 者：	
備考	④については、50分授業を1単位時間とする。単位換算については講義・演習は15単位時間を1単位、実験・実習・実技は30単位時間を1単位とする。また、単位換算は小数点以下を切り捨てる。ただし、0.5以上1.0未満のものは0.5単位とする。			科目コード	060441